

(算数科)

意欲的に学ぶ子どもを育てる算数科学習
～基礎・基本を習得し、自分の考えを表現できる子どもの育成～

大阪市立柏里小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校は、『よく考える子、仲よくする子、ねばり強い子』を教育目標とし、それぞれの理念が一体となった人格の形成をめざしている。

これは、大阪市教育振興基本計画においても『生きる力』の重点に「確かな学力の確立・豊かな心とすこやかな体の育成」と示されていることに呼応している。

しかしながら、『学習到達度診断』や『全国学力・学習状況調査』等の結果から本校の児童には基礎的・基本的な事柄の理解が十分でないこと、また、自ら考えを持ち、筋道を明らかにして説明するということが課題があることがわかってきた。そこで、教科に関する授業の改善・研究が重要であるとの結論に達し、一昨年より、算数科を研究教科とした。

基礎・基本の知識や技能の習得を図りながら、既習事項を活用し、新たな発見ができる喜びを味わい自力で問題解決できる力を身につけさせたい、という願いのもと、研究主題を『意欲的に学ぶ子どもを育てる算数科学習』—基礎・基本を習得し、自分の考えを表現できる子どもの育成— と設定した。

一昨年、昨年と算数科の授業を5段階の学習指導過程に分け、問題解決型の学習に取り組んだ。その学習過程と対応するノート指導や板書を工夫することで、既習事項を活用し、問題解決に向けて見通しを持ち、自力解決するという学習の流れは身につけてきた。しかし、自分の考えをわかりやすく伝える力や自分の考えと友だちの考えを比較して、それぞれの良さを確認しあう力はまだまだ培われてはいない。そこで、今年度も引き続きこの研究主題の下、基礎・基本の習得を図りながら、自分の考えをわかりやすく表現し、交流できる力の育成をめざして研究に取り組んだ。

2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

①問題解決型学習の定着を図る。

- 学習指導過程「出あう・気づく・考える・振り返る・活かす」の定着
- 学習指導過程に対応したノートや板書の工夫

②自分の考えを持つ手立ての工夫

- 見開き2ページに問題解決の過程がわかるノート指導の工夫
- 自力解決が難しいと予想される場面でのヒントカードの工夫
- 個に応じた指導をするための学習形態の工夫

③自分の考えを筋道立てて表現し、交流することができる授業展開の工夫

- ペアやグループでの交流
- 表現の仕方や伝え方を身につけさせるために話型を指導する。
- 授業の導入場面や考えを発表する場面、練習問題等での ICT 機器の効果的な活用
- 振り返りでの「わ」「か」「い」の確認（わかりやすく、簡単で、いつでも使える）

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 5段階からなる授業展開を工夫し、解決への道筋を明確にした学習を継続したことで、自分の考えた見通しに沿って自力解決していこうと主体的に取り組む学習態度が身についてきた。
- 図や式や言葉など、自分なりの手段を用いて考えを表現できるようになってきた。
- 自分の考えを他者に伝え、交流しあうことの楽しさを感じる児童が増えてきた。

(2) 今後の課題

- ペアやグループ交流をどの場面で取り入れれば、学習内容の理解を深め、自分の考えを表現する力をのばすことができるのか、さらに研究を深める。
- ICT 機器、特にタブレット端末を授業で使いこなせるよう、機器の扱いに慣れることと、どの教材でどんな使い方をすれば効果的であるのか、研修会に参加したり、教員同士で情報交流したりして、研究を深める。
- 児童の相互交流によって、意見を比較・検討し考えを練り上げる力の育成を図る。